



国立大学法人

名古屋工業大学

Nagoya Institute of Technology

概要

2014

未来を創る名古屋工業大学

名古屋工業大学は、明治38年の名古屋高等工業学校創立以来、屈指の規模を有する工科系単科大学として発展し、わが国の繁栄に貢献をしてまいりました。この伝統と誇りを尊び、平成24年には、「常に新たな産業と文化の揺籃として、革新的な学術・技術を創造し、有為な人材を育成し、これからの社会の平和と幸福に貢献する」ことを基本使命とする名古屋工業大学憲章を制定しました。さらに、「実践的工学エリートの養成」と「工学のイノベーションハブ」を教育研究目標の柱とする行動指針を設けました。



実践的工学エリートの養成をめざして

わが国の産業基盤技術を維持・革新していくリーダー、グローバルに活躍できる工学リーダー、そして独創的な発想によってこれまでにない製品、サービス、システムを作り上げ新産業を創造していくリーダーなど、産業界・社会から多様な人材を輩出することへの大きな期待が名古屋工業大学の教育研究に集まっています。名古屋工業大学は、開学以来数多くの実践的な技術者を輩出してきました。この伝統を重視しながらもそれに甘んじることなく、学部・大学院六年一貫教育、融合的な分野からなる新教育課程を創設するなど、教育システムの不断の改善と充実をはかっていきます。

名古屋工業大学は、産業・社会ニーズを踏まえた工科系大学の新たなスタンダードとなる工学教育により「実践的工学エリート」を養成していきます。

工学のイノベーションハブをめざして

名古屋工業大学は、工学の多くの分野において優れた研究実績をあげ、「テクノロジーの宝庫」と評されています。この実績を盤石なものとし、さらに大学全体の研究力を向上させるために「リサーチ・アドミニストレーション・オフィス」を設置して、研究分野の特色を生かしながら戦略的に支援し、世界トップレベルの研究分野の育成を目指します。また、産学連携のトップクラスの実績をおおいに活かし、地域の有望企業との産学連携プロジェクトを一層推進し、グローバル企業へのさらなる躍進をめざす地域企業を積極的に支援します。

名古屋工業大学は、戦略的且つ組織的研究支援体制と産学官連携体制の強化、この二つを両輪とする仕組みによって「工学のイノベーションハブ」を実現し、研究ブランド力を向上させ、産業の国際的競争力強化に貢献していきます。

御器所が丘の地に開学して以来、名古屋工業大学は地域の産業、社会に育てられてきました。名古屋工業大学は、新たなグローバルステージに踏み出すとともに、これからも産業界、地域社会、そして卒業生から支持される個性輝く魅力的な大学をめざしてまいります。

名古屋工業大学長 鶴飼 裕之

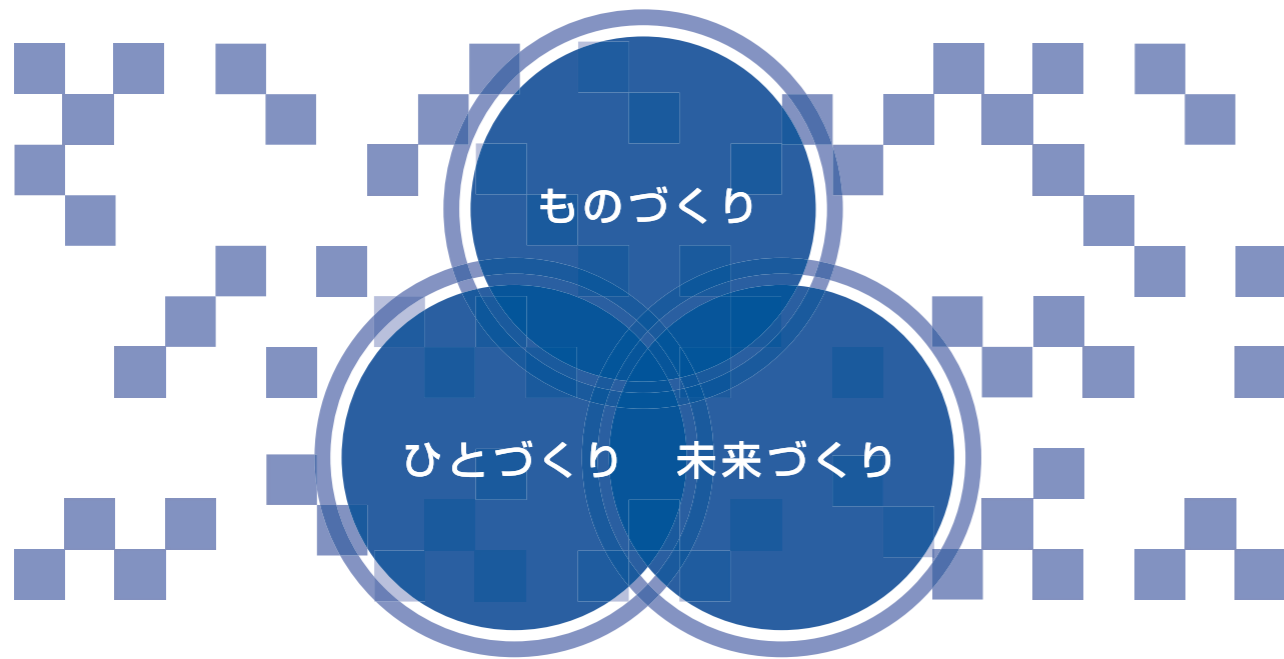
CONTENTS

1	名古屋工業大学憲章
2	役職員、経営協議会委員、教育研究評議会評議員
3	歴代の校長・学長
3	教員組織
4	海外拠点
5	運営組織等
7	学部・大学院
10	附属図書館
11	教育研究センター
14	その他センター 等
17	役員・教職員数
18	学生数
20	平成26年度入学状況
23	卒業生・修了者数
24	平成25年度卒業生・修了者の就職（進学）状況
29	外国人留学生数
30	学術交流協定締結状況
31	学生生活上の施設等
32	主な教育研究補助金採択状況
32	プロジェクト研究所
32	平成25年度科学研究費助成事業
32	平成25年度知的財産収入
33	平成25年度財政状況
34	土地・建物
35	学内配置図
36	アクセスマップ



基本使命

名古屋工業大学は、日本の産業中心地を興し育てることを目的とした中部地域初の官立高等教育機関として設立されたことを尊び、常に新たな産業と文化の揺籃として、革新的な学術・技術を創造し、有為な人材を育成し、これからの社会の平和と幸福に貢献することをその基本使命とする。



ものづくり

名古屋工業大学は、構成員の自由な発想に基づく実践的かつ創造的な研究活動を尊ぶとともに地球規模での研究連携を推進し、既存の工学の枠組みにとらわれることなく、工学が本来有する無限の可能性を信じ、新たな価値の創造に挑戦する。

ひとづくり

名古屋工業大学は、自ら発見し、創造し、挑戦し、行動することで、工学を礎に新たな学術・技術を創成し世界を変革することのできる個性豊かで国際性に富んだ先導的な人材の育成に専心する。

未来づくり

名古屋工業大学は、国民から負託を受けた開かれた大学として地域および国際社会との調和と連携を重視し、ものづくりとひとづくりを通して平和で幸福な未来社会の実現に向けて邁進する。

平成24年1月1日 制定



平成26年7月1日現在

役員

学 長	鶴 飼 裕 之
理 事・副 学 長	木 下 隆 利
理 事・副 学 長	湯 地 昭 夫
理 事・事 務 局 長	香 川 徹
監 事	松 田 茂 樹
監 事	雑 賀 正 浩

副 学 長	小 畑 誠
副 学 長	江 龍 修
副 学 長	春 日 敏 宏
副 学 長	井 門 康 司
副 学 長	内 匠 逸
附 属 図 書 館 長	喜 岡 涉

経営協議会委員

学内委員

鶴 飼 裕 之	学 長
木 下 隆 利	理 事
湯 地 昭 夫	理 事
香 川 徹	理 事
江 龍 修	副 学 長
内 匠 逸	副 学 長

学外委員

(五十音順)

浅 野 幹 雄	豊田通商株式会社取締役副社長
生 方 眞 哉	株式会社生方製作所代表取締役会長
郡 健 二 郎	公立大学法人名古屋市立大学理事長・学長
榊 直 樹	学校法人東邦学園理事長
堀 龍 之	丸の内綜合法律事務所弁護士
水 谷 尚 美	名古屋工業大学研究協力会会長
森 岡 仙 太	愛知県副知事
横 山 裕 行	トヨタ自動車株式会社専務役員
吉 田 均	中部電力株式会社顧問

教育研究評議会評議員

学 長	鶴 飼 裕 之
理 事	木 下 隆 利
理 事	湯 地 昭 夫
理 事	香 川 徹
副 学 長	小 畑 誠
副 学 長	江 龍 修
副 学 長	春 日 敏 宏
副 学 長	井 門 康 司
副 学 長	内 匠 逸
附 属 図 書 館 長	喜 岡 涉
お も ひ 領 域 長	仁 科 健
し く み 領 域 長	多 賀 圭 次 郎
つ く り 領 域 長	市 村 正 也
な が れ 領 域 長	瀬 口 昌 久

生 命・物 質 工 学 教 育 類 長	加 藤 禎 人
環 境 材 料 工 学 教 育 類 長	柿 本 健 一
機 械 工 学 教 育 類 長	市 川 洋
電 気 電 子 工 学 教 育 類 長	岩 崎 誠
情 報 工 学 教 育 類 長	佐 藤 淳
建 築・デ ザ イン 工 学 教 育 類 長	井 戸 田 秀 樹
都 市 社 会 工 学 教 育 類 長	梅 原 秀 哲
共 通 教 育 代 表	大 桑 哲 男
先 進 セ ラ ミ ッ ク ス 研 究 セ ン タ ー 長	太 田 敏 孝
共 通 教 育 総 合 セ ン タ ー 長	森 秀 樹

事務局

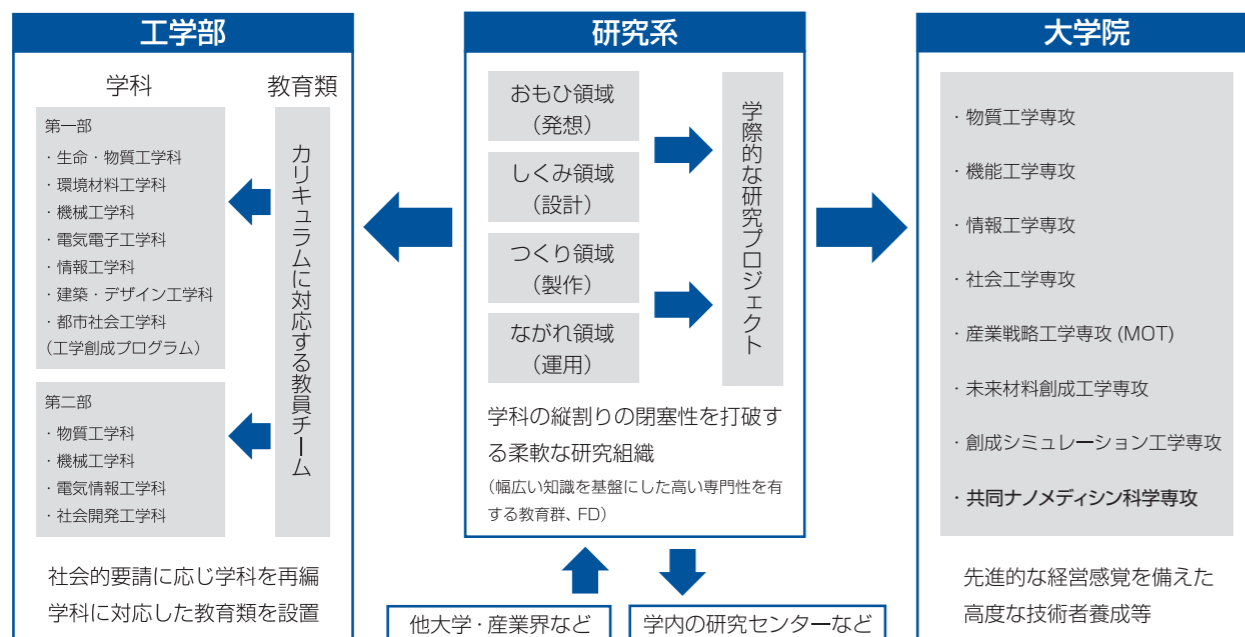
事 務 局 長	香 川 徹
事 務 局 次 長	磯 部 剛 利
事 務 局 次 長	齊 藤 修
学 務 課 長	清 水 由 紀 子
学 生 生 活 課 長	福 本 英 基
研 究 支 援 課 長	吉 田 正 男
学 術 情 報 課 長	八 木 正 行
総 務 課 長	岡 崎 政 典
企 画 広 報 課 長	三 田 晴 伸

人 事 課 長	樋 田 浩 和
財 務 課 長	廣 岡 信 行
経 理 課 長	有 田 孝 一
施 設 企 画 課 長	塚 谷 利 泰
技 術 部 長	湯 地 昭 夫
技 術 部 次 長 (計 測 分 析 課 長)	玉 岡 悟 司
装 置 開 発 課 長	安 形 保 則
情 報 解 析 技 術 課 長	服 部 博 文

歴代の校長・学長

区分	氏名	在職期間
名古屋高等工業学校長	土井 助三郎	明治38年 4月～大正 7年 4月
	武田 五 一	大正 7年 4月～大正 9年 9月
	森 彦 三	大正 9年 9月～昭和 8年 9月
	土屋 純 一	昭和 8年 9月～昭和14年 9月
名古屋工業専門学校長	平田 徳太郎	昭和14年 9月～昭和20年11月
	結城 朝 恭	昭和20年11月～昭和23年 8月
	清水 勤 二	昭和23年 8月～昭和26年 3月
愛知県立高等工業学校長	(事務取扱) 平田 徳太郎	昭和18年 2月～昭和18年 9月
愛知県立工業専門学校長	造賀 常 一	昭和18年 9月～昭和26年 3月
名古屋工業大学長	清水 勤 二	昭和24年 5月～昭和34年 5月
	佐藤 知 雄	昭和34年 5月～昭和44年 2月
	(事務取扱) 城戸 久	昭和44年 2月～昭和44年 9月
	(事務取扱) 村井 忠 一	昭和44年10月～昭和44年11月
	(事務取扱) 山田 保	昭和44年11月～昭和45年 1月
	(事務取扱) 森島 宗太郎	昭和45年 1月～昭和45年10月
	森島 宗太郎	昭和45年11月～昭和47年10月
	佐野 幸 吉	昭和47年11月～昭和53年10月
	武藤 三 郎	昭和53年11月～昭和59年10月
	太田 正 光	昭和59年11月～平成 2年10月
	吉田 彌 智	平成 2年11月～平成 8年10月
	岡島 達 雄	平成 8年11月～平成12年10月
	柳田 博 明	平成12年11月～平成16年 1月
	松井 信 行	平成16年 1月～平成22年 3月
	高橋 実	平成22年 4月～平成26年 3月
鵜飼 裕 之	平成26年 4月～	

教員組織



海外拠点

名古屋工業大学北京事務所

所長 藤 正督



名古屋工業大学の中国における海外拠点として、北京化工大学内に平成23年6月に設置しました。情報の発信、留学希望者に対する情報提供や支援、本学と諸外国の研究者による共同研究等の支援や学術・教育交流の推進等を目的としています。
住所：北京市北三环东路15号、100029北京化工大学・科技大厦3階309号

名古屋工業大学マレーシア事務所

所長 曾我 哲夫



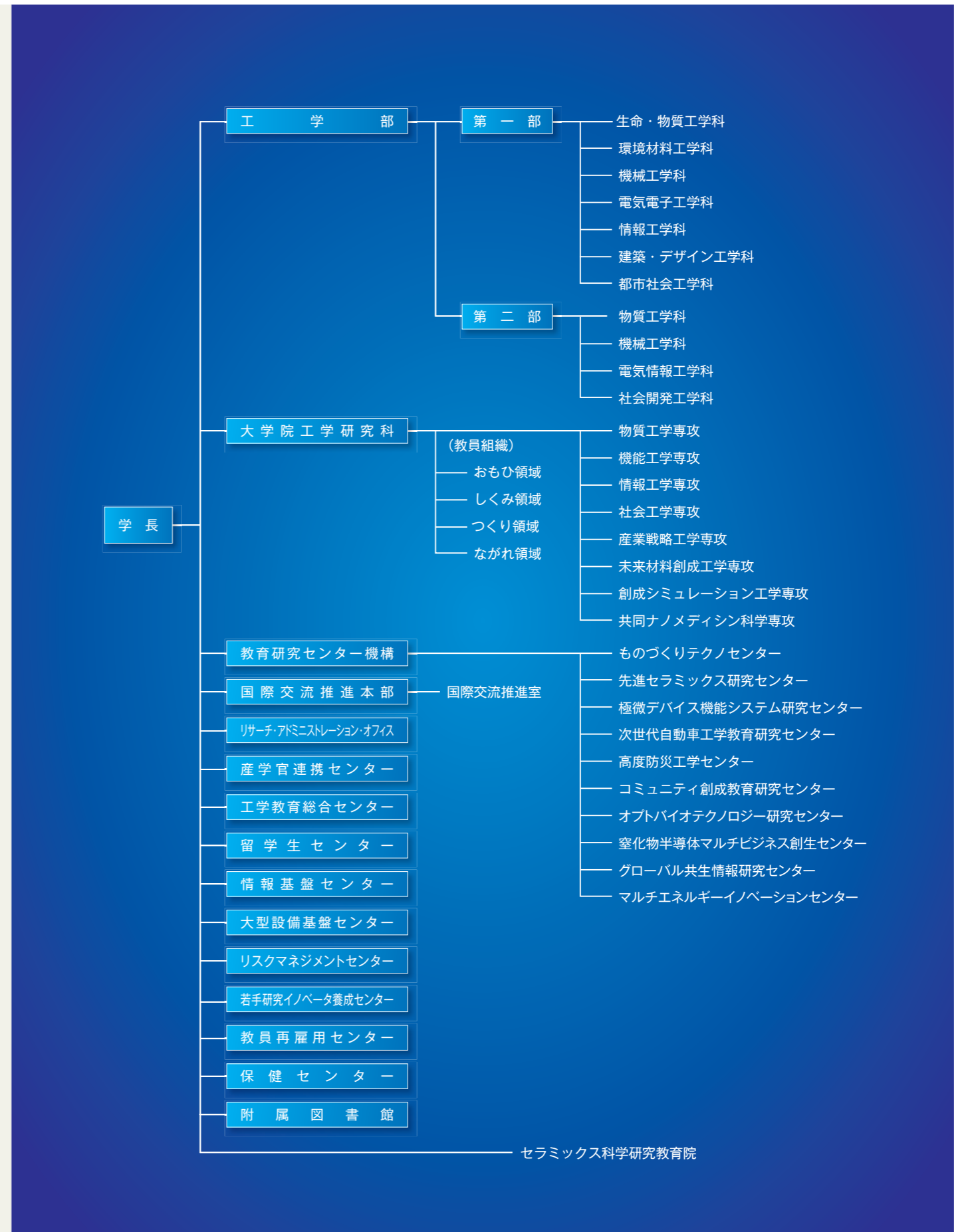
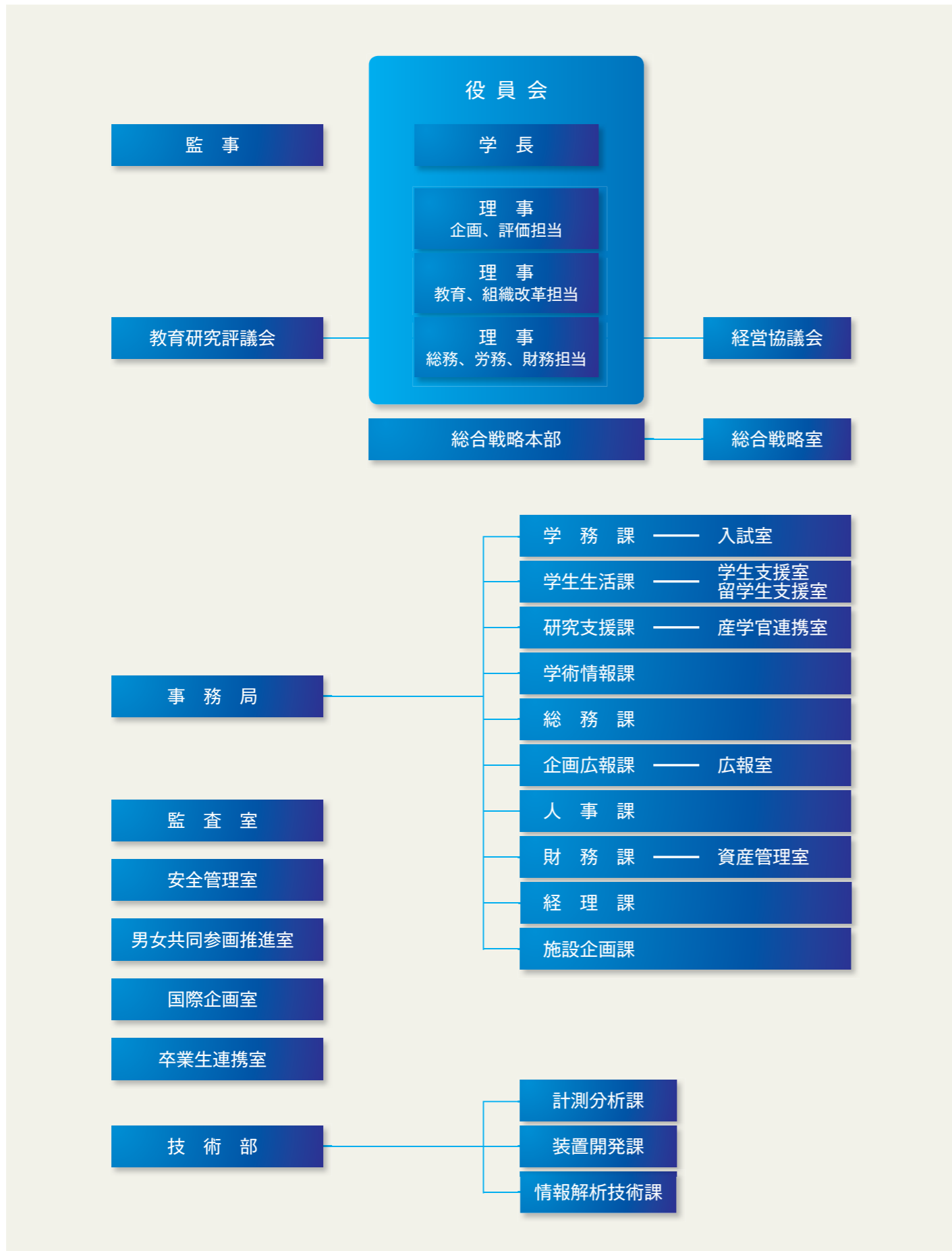
名古屋工業大学のマレーシアにおける海外拠点として、マラ工科大学内に平成25年3月に設置しました。セミナーやシンポジウムの開催及び本学とマレーシアとの共同研究等の支援を通じて優秀な人材確保と要請を行い、学術・教育交流の推進や本学の情報発信等を行うことを目的としています。
住所：Faculty of Electrical Engineering Universiti Teknologi MARA (UiTM) 40450 Shah Alam, Selangor, Malaysia

名古屋工業大学ヨーロッパ事務所

所長 柿本 健一



名古屋工業大学の欧州における重要な活動拠点として、ドイツ/エアランゲン・ニュルンベルク大学内に平成25年7月に設置しました。欧州の研究者との共同研究や国際産学連携、セミナー・シンポジウムの開催支援、名古屋工業大学の紹介及び情報発信等広報活動の推進などの事業を行うことを目的としています。
住所：Faculty of Engineering Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg (FAU) Erwin-Rommel-Strasse 60, 91058 Erlangen, Germany



セラミックス科学研究教育院

工学部第一部

生命・物質工学科

「化学」は、生命及び生体やエネルギー・地球環境など、我々を取り巻く様々な物質や現象と深く関わっています。本学科では、「化学」を基本とした教育を通して、幅広い視野から創造的な発想でのづくりができ、産業・社会の発展において中核的役割を担う技術者・研究者を育成することを目的としています。この目的の達成のために、本学科では、物質化学系プログラム、生物生命系プログラム、生体材料系プログラムの3つのカリキュラムを設け、基礎学力とそれらを生体生命活動の解明から化学物質・エネルギーの創造へ応用するために必要な専門的知識を習得するための教育を行っています。

環境材料工学科

材料は、「ものづくり」の基盤要素です。そして今、物質的に豊かなエネルギー大量消費社会を脱し、心豊かに安心して暮らせる社会を実現するために、21世紀のバラダイム「クリーンで環境に調和する材料科学」の確立及びその研究と人材育成が望まれています。本学科はセラミックス系プログラム及び材料機能系プログラムの2つの専門教育プログラムからなり立っており、科学に裏打ちされた材料工学そのものの専門知識に加えて、自然と人間が調和した共生社会のシステム全体を見渡す総合的な能力を有した世界に通用する人材の輩出を目標に教育を行います。

機械工学科

機械工学科は「計測系」「機構系」「エネルギー系」の3つのプログラムによって構成されており、従来の機械工学に計測工学、応用物理学を有機的に結合して、21世紀の科学・技術を先導できる技術者を育成することを目的としています。すなわち、物事を正しく精密に測ってその原理を見極め、その原理を応用して具体的な作用を正しく行わせるしくみを考案し、さらに流体や熱エネルギーを環境との調和に配慮して適切に利用する技術を開発できるような、基礎知識と技術を身につけた実践的な高度技術者を養成することをその教育目標としています。

電気電子工学科

21世紀の技術者には、高い倫理観を持ち、技術そのものの向上だけでなく、それが地球環境に及ぼす影響にも配慮できることが必要とされます。本学科は、エレクトロニクス社会を担う技術者として必要な教育を、系統的かつ効果的に行う3つのプログラムで構成されています。機能電子系プログラムでは環境に優しいエレクトロニクス社会を構築するために必要な電子材料や素子に関する知識と技術を習得します。エネルギーデザイン系プログラムでは環境や人間との協調を考えながら、電力の発生から利用までを統合的にデザインする知識と技術を習得します。通信系プログラムでは人類にとって必要不可欠な通信について有線・無線の基礎から応用についての知識と技術を習得します。

情報工学科

情報工学科は、次世代の新たな情報システムを実現し、人にやさしい高度情報化社会を創生することができる人材の育成を目指しています。そのため、現代社会を支える情報基盤技術を修得するとともに、将来のより高度な情報化社会の実現に不可欠な情報ネットワーク技術、知能情報技術、メディア情報技術を修得するための3つの系プログラムが設置されています。また、各系プログラムを履修することにより、豊かな情報化社会に向けて、既存の理論や技術を発展させ、さらに高度な理論や技術を研究開発することができる能力と感性を備えた人材を育成することを目的としています。

建築・デザイン工学科

明治38（1905）年創立以来100年以上にわたって多くの優れた建築家・建築技術者を育成してきた建築学を母体に、平成16年からあらたにデザイン分野を加え、2つのプログラムからなっています。建築系プログラムでは、建築設計・計画、建築構造、材料・施工、環境・設備、歴史・意匠、維持・保全など、建築と都市の魅力を高めるために必要な工学・技術と芸術・文化の両面を総合的に習得します。また、デザイン系プログラムでは、クラフトデザイン、プロダクトデザイン、デザインマネジメントなど、人間の暮らしを支える美しく使いやすい「もの」を創造するために必要なデザイン力と芸術・文化の両面を総合的に習得します。

都市社会工学科

2つの教育プログラムの下で、環境都市の整備及び産業に関わる諸問題を解決できるエンジニアの養成を目指します。環境都市系プログラムでは、私たちの生活や生産活動を支える社会基盤（橋、鉄道、道路、公園、港湾、ライフラインなど）の計画・設計・建設・維持管理・運用技術として、都市・交通計画、地盤防災、構造耐震、構築材料、河川海岸防災、生態保全等の工学体系を修得し、災害に強い環境都市の形成のために、国や自治体、鉄道・道路会社、コンサルタント、建設会社等の幅広い職域で活躍できる技術者を養成します。経営システム系プログラムでは、社会のさまざまなシステムを的確にマネジメントする技術者を育成します。文理融合型の教育を通して、社会を支える多様なシステム、その構成要素・マネジメント資源である「ひと・もの・かね・情報・時間」、そしてシステムのマネジメント手法を学びます。電機、自動車、情報通信、コンサルタント等、幅広い分野で、高い問題解決能力をもった技術者として活躍できます。

工学部第二部

物質工学科

「化学」は、生命及び生体やエネルギー・地球環境など、我々を取り巻く様々な物質や現象と深く関わっています。本学科では、「化学」を基本とした教育を通して、幅広い視野から創造的な発想でのづくりができ、産業・社会の発展において中核的役割を担う技術者・研究者を育成することを目的としています。この目的の達成のために、工学としての基礎学力および化学物質の構造と性質、生体・生命関連物質の構造と機能、エネルギー変換・創成に関する知識の習得、そして、これらを地球環境の保全、資源・エネルギー循環と調和した「ものづくり」技術へ応用する力の涵養を目指した教育を行っています。

機械工学科

第二部機械工学科は第一部機械工学科と同様、物事を正しく精密に測ってその原理を見極め、その原理を応用して具体的な作用を正しく行わせるしくみを考案し、さらに流体や熱エネルギーを環境との調和に配慮して適切に利用する技術を開発できるような、基礎知識と技術を身につけた実践的な高度技術者の養成をその教育目標としています。また、第二部機械工学科では「技術士補」の資格取得の一つの具体的な目標として教育を行い、4年生の後期に技術士補の試験を受験できるようにカリキュラムが構成されています。

電気情報工学科

電気情報工学科は、現代のエレクトロニクス社会を支える、電子物性・電子デバイス・電気エネルギー・回路システム・情報通信・計算機に関する知識と技術を習得した技術者の養成を行います。最初は基礎となる数学・物理学のほか、プログラミング・電磁気学・電気回路などを学びます。続いて、専門科目の基礎として電気電子材料・情報工学などを学習し、その後電子デバイス・電力工学・制御工学・通信工学・計算機工学などを学びます。以上のように、自己の特性と学問的興味により、専門分野の先端技術を幅広く体得することができます。

社会開発工学科

私たちの安全・快適な社会生活を支える基盤施設には、道路、港、空港といった交通施設、上下水道、公園といった都市施設、ダム、各種発電所などのエネルギー生産施設、河川堤防や海岸護岸などの防災施設があります。本学科では、これらの重要な施設整備に関わる、都市・交通計画、地盤防災、構造耐震、構築材料、河川海岸防災、生態保全等の工学技術を修得することで、国や自治体の技術系公務員や、計画・設計会社、建設会社等の幅広い職域で活躍できる技術者を養成します。具体的な内容は工学部第一部都市社会工学科環境都市系プログラムとほぼ対応するものです。

大学院工学研究科

基盤専攻

物質工学専攻

物質工学専攻は、有機分野、無機分野、プロセス分野、物性分野、生命機能分野の5大分野で構成されており、物質科学の広範な分野をカバーしています。有機・無機・金属材料、高分子、セラミックス、有機・無機化学、生命化学、分析化学、化学工学、環境などに関する専門分野について、基礎から応用に至る幅広い見地から、科学・技術の進展に寄与することを目的として、高度な教育と研究を行っています。これによって、近年の物質研究の高度化・専門化に対して、先導的役割を果たし、かつ先端的技術の研究開発に優れた能力を発揮できる人材を養成します。

機能工学専攻

21世紀における人間生活を持続的かつ豊かで多岐にわたるものにするためには、環境負荷低減を基幹とした多様な工業技術革新が必要となります。機能工学専攻においては、物理学、機械工学、電子工学の学問的基礎を確実に踏まえ、合理的かつ調和のとれた手法で工業技術を創造することができる独創的で広い視野を持った人材を養成します。本専攻には、エレクトロニクス、計測、機構及びエネルギーの4分野があり、それぞれが電子工学、計測物理学、機械工学での科学技術の発展に即応しつつ、同時に分野間の連携もとりながら教育・研究を推進しています。

情報工学専攻

人類社会環境の発展と調和を目指し、先端的な高度情報化の社会形成のためには、理工学手法を用いた情報数理、人工知能と人工生命、計算機工学、ソフト情報工学とハード情報工学を融合した情報通信システム、システム制御工学、及び音声画像情報処理の果たす役割は重要です。情報工学専攻は、情報数理、知能科学、通信・計算機、システム制御、メディア情報の5分野から成り立っており、上記研究領域を基盤とした視野で人類の発展に寄与できる人材を育成する教育を行います。

社会工学専攻

工学及び社会科学的観点から広く人間をとりまくシステムの企画、計画、設計、評価、構築、維持管理、改善に寄与できる技術に関する高度な教育と研究を行います。本専攻は、人間空間、社会基盤、環境防災、マネジメントの4分野からなり、建築、デザイン、都市社会整備、国土形成、環境、防災、経営工学、システム・マネジメント等に関する技術を扱い、人間と自然にやさしい社会を創造しようとする人材を育成します。

独立専攻

産業戦略工学専攻

産業戦略工学専攻は、技術力に裏打ちされた技術経営に基づく市場価値の創造を基本理念とし、各種プロジェクト開発の事例研究を通じて新事業創造、起業におけるビジネスプラン作成、あるいは、地域の産業技術政策を立案し、遂行する能力を持つ人材の育成を目指します。電気・情報系、機械系、化学・材料系、建築・土木系を基盤としたコアテクノロジー分野と、マネジメント、戦略やイノベーション、あるいは政策を取り扱う産業技術経営分野で構成され、両分野が緊密に連携し合う形で一体的な教育・研究を行っています。産業戦略工学専攻の教育方針としては、社会人については、職業経験によって得られた固有技術やノウハウを体系的に整理し、産学連携等による技術イノベーションの創出や技術経営能力の育成を通じてキャリアアップを回り、先進的な経営感覚を有する人材を育成します。また、一般専攻生については、学生・教員全員参加の場を通じた論議思考の向上、実践的側面の教育効果を期待するインターシッパへの参加、市場や経済性評価を踏まえた技術開発やマネジメント等の教育・研究を行います。

未来材料創成工学専攻

エネルギー・資源問題、環境問題、医療問題を解決し、持続発展可能な近未来循環型社会を構築することは、世界的な緊急の課題であります。本専攻では、ナノスケールの根本原理にのっとり、環境親和性、エネルギー変換効率、生体機能性に優れた夢の未来材料の設計・創製を支える高度な研究を行っており、環境調和セラミックス工学、エネルギー変換工学、ナノ・ライフ変換科学に関する基礎から応用にいたる専門分野について、広い見地で専門知識、技術を持ち、わが国のみならず世界に活躍できるリーダーを育成します。

創成シミュレーション工学専攻

創成シミュレーション工学専攻は、コンピュータシミュレーションとネットワークシステムを共通手法として異分野融合による新分野創成を積極的に進め、コンピュータを高度に活用し産業界を拡大発展させる人材を育成します。このために、コンピュータがもつ強力な計算、検索、表現、通信などの能力を最大限に発揮する手法を開発、駆使することと異分野の知識を寄り合わせることで、これまでは想像することすら難しかった複雑な工学上の問題の解決法を探し、経験を超える新しい知の地平線を越えた工学の創成を目指します。本専攻には計算応用科学、計算システム工学、都市シミュレーション工学の3分野があり、広い視野と問題意識をもって学ぶことができます。

共同ナノメディシン科学専攻

共同ナノメディシン科学専攻では、名古屋工業大学工学研究科と名古屋市立大学薬学研究科が連携して、最先端の薬学とナノ工学を駆使し、薬を【つくる】機能医薬創成学部門（内容：高度精密有機合成、ナノメディシン工学、バイオテクノロジー）、【輸送する】薬物送達・動態科学部門（内容：薬物送達科学、薬物動態科学、人工蛋白質工学）、そして【評価する】医薬支援ナノ工学部門（内容：ナノ生体工学、バイオメカニクス、ナノイメージング）の3つの部門において、教育・研究を行い、薬工両面に精通し、新薬・機能性食品・化粧品などの研究開発のコアメンバーとなる人材を育成します。

附属図書館は、本学の学術情報に関する中心機関として、図書及びその他の資料を収集・管理し、職員・学生に提供し、教育、研究及び総合的教養の向上に資することを目的としています。静と動のゾーニングによる各種ルームやコーナーを設置し、新しい利用要求に対応しています。

開館時間

曜日	通常期間中	休業期間中
月～金	8:45～21:45	8:45～16:45
土日祝日	8:45～16:45	

利用状況

平成25年度

開館日数	317日
入館者数	290,649人
貸出冊数	44,925冊
文献複写	2,248件



4階	学術雑誌（技術・工学）、セミナー室
3階	学術雑誌（自然科学、技術・工学、産業）、研究ブース、セミナー室、新着雑誌コーナー、大学資料室、国際交流コーナー
2階	図書（技術・工学、芸術、言語）、学術雑誌（社会科学、自然科学）、PC/AVコーナー、メディア室、自由閲覧室、セミナー室、地域連携コーナー、パソコンコーナー、集密書庫、リフレッシュコーナー
1階	図書（自然科学、技術・工学、哲学、歴史、社会科学、文学、産業）、カウンター、情報検索コーナー、ブラウジングコーナー、インフォメーションコーナー、集密書庫
地下	閉架集密書庫

蔵書数

平成25年度末現在

媒体	和	洋	計
図書	260,099冊	211,385冊	471,484冊
雑誌	2,301種	3,159種	5,460種
電子ブック	431	19,561	19,992
電子ジャーナル	591	12,177	12,768



リポジトリ利用状況

平成26年5月1日現在

アイテム数	3,724
アクセス数	187,142
ダウンロード数	631,498



名古屋工業大学機関リポジトリ (<http://repo.lib.nitech.ac.jp>)
名古屋工業大学内で生産された学術情報（博士論文や教員の発表論文など）を検索・閲覧できます。

■ものづくりテクノセンター 15号館



センター長 中村 隆

学生及び社会人に対し高度な実践的ものづくり教育を行うとともに、ものづくり教育システムの開発を行うことを目的としています。主な業務として、実践的なものづくり実習教育の実施、ものづくり教育システムの開発、社会人を対象とするものづくり教育の実施、教育研究用機器・機材の製作及び支援、学科・専攻横断型教育研究プロジェクトの実施と支援などを行っています。

■先進セラミックス研究センター（岐阜県多治見市）



センター長 太田 敏孝

地球規模で直面する環境・資源・エネルギー問題を解決し、持続型社会の構築を実現するため知的マテリアル創製学を核とし、地域の資源と技術が融合することで発展してきたセラミックス産業文化を範として、地域に即した多様な新価値を探索する国際的・学際的・融合的な先進セラミックスの工学研究を実施し、社会に還元することを目的としています。

■高度防災工学センター 1号館



センター長 井戸田秀樹

災害を予測・軽減・制御する技術の開発、巨大災害のプロセス、災害ポテンシャルの評価を通じて世界をリードする防災工学の拠点を形成します。諸工学に立脚した防災・減災サービスのフレーム構築及び社会実装を通じて災害に強い地域社会の構築に寄与することを目的としています。

研究分野は、災害制御研究部門、災害対応サービス研究部門、プロジェクト推進室です。

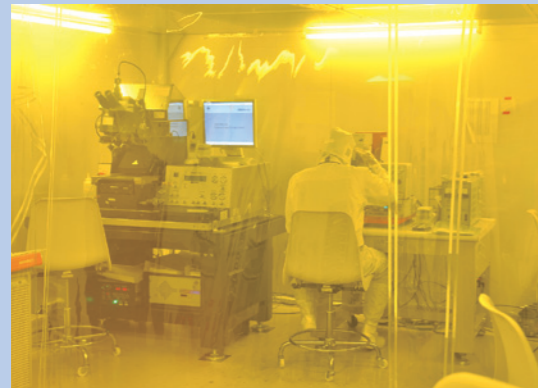
■コミュニティ創成教育研究センター 18号館



センター長 秀島 栄三

世界に先駆けて超高齢社会となった日本ではこれまで以上に科学技術の貢献が期待されています。とは言え、高齢者のケアだけに偏った技術貢献では社会の発展が望めません。いま求められているものは、高齢者が持続的に社会参加できる技術貢献です。それには工学と人文社会科学が融合することを通じて実現可能となる「高齢者の生活空間を視座とした技術貢献」という新しい発想が不可欠です。本センターは、こうした観点から、本学初の文理融合型センターとして、地域コミュニティを中心に多世代共生が可能となるような技術のあり方を理念的に追求すると同時に、実際に現場に出て、フィールドワークを通じて見出される、実践的な日常技術のあり方を追求することを目的としています。

■極微デバイス機能システム研究センター 22号館

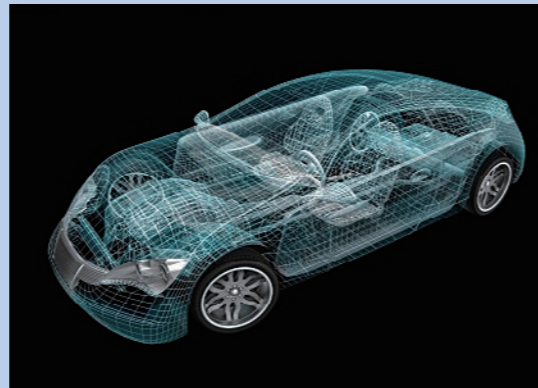


センター長 江川 孝志

新規半導体材料及び新機能デバイス・システムの研究開発並びに産業・生産技術に直結した技術の確立等を行い、これを通して教育・研究の進展に資することを目的としています。

研究分野は、ナノ構造の結晶成長及び物性評価、発光デバイス（LED、レーザー）、電子デバイス、フォトディテクター、超高効率太陽電池です。

■次世代自動車工学教育研究センター 11号館



センター長 中村 隆

次世代自動車工学教育研究センターは、エネルギー問題及び環境問題を一体的に解決する次世代自動車関連分野の研究、産業に結び付く次世代自動車技術の確立等を行うとともに、次世代自動車技術に関わる教育を行うことを目的としています。

生産技術分野、動力制御分野、パワーエレクトロニクス分野に渡る研究・開発を行うとともに、「工場長養成塾」、「3D-CAD設計技術者育成講座」や本センターの研究・開発部門のリソースを活用した教育プログラムの創成を行います。

■オプトバイオテクノロジー研究センター



センター長 神取 秀樹

光を利用した生命現象の研究は、2008年のノーベル賞につながった「光観察」に加えて、最近では脳研究に革命をもたらしているOptogenetics（光遺伝学）など「光操作」技術が大きな注目を集めている萌芽的な学問分野です。本センターは、光が関わる生命現象を工学として解析することにより、全く新しい産業の創出に貢献することを目指します。このため、光の本質や光励起現象を正しく理解し、新しい材料を生物から、あるいは生物に範を得て創製するとともに、光を利用した医療分野への展開を図ります。

例えば、光駆動イオンポンプである膜タンパク質・ロトポンは、すでに光遺伝学の重要なツールとして使われていますが、ツール開発により、さらなる発展が期待されます。本センターは3つの部門が連携して研究を遂行するとともに、学外との異分野融合も積極的に推進します。

■窒化物半導体マルチビジネス創生センター 56号館



センター長 江川 孝志

本学が、世界に先駆けて研究開発を進めてきた「Si基板上に極薄のGaN膜を成長させる（GaN/Si）結晶成長技術」を核として、装置・材料・デバイス等の関連企業と一体となり、現在のSi半導体の高性能化・高付加価値化により省エネルギー化を実現でき、既存の国内Si半導体製造ラインを有効活用し、電力需給問題解決の一助となる大電力用パワーデバイスを開発する産学官連携体制を構築。一つ屋根の下型の研究開発拠点を形成し、当該分野における持続的な実用化研究開発を進めています。

■グローバル共生情報研究センター 20号館



センター長 佐藤 淳

今日では、急速なグローバル化により、言語・文化・歴史観・価値観・精神身体機能等の相違や多様性に起因する様々な社会問題が発生しています。例えば、価値観や歴史観などの相違に基づく国際問題は年々深刻さや複雑さを増しています。

本センターは、このようなグローバル社会の様々な歪を取り除き地球規模での共生と持続可能な発展をもたらす共生情報技術の開発を目指します。特に、言語、文化、歴史観、価値観、精神機能、身体機能等の差異や多様性を情報技術によって補うことで、人々が互いの相違を越えてコミュニケーションを取り合意形成を行うことを支援する情報技術や、非健康者が積極的に社会に参画しその能力を活かすことのできる情報技術の研究開発を進めています。

■マルチエネルギーイノベーションセンター



センター長 種村 眞幸

クリーンエネルギーの創出は益々その緊急性と重要性を増しています。同時に、クリーンエネルギー源は実に多様であることも事実です。本学では、個々の要素技術として、多様な「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」、「送エネ」の各技術開発の芽が育っています。本センターは、これらの要素技術を集積し有機的に結合させることで全体を俯瞰するトータルエネルギー創出・利用システム構築に関する先端的研究を集約的に行うとともに、それによってイノベーションを創出するための国際的に活躍できる人材の育成を目的としています。

■産学官連携センター 18号館



センター長 江龍 修

教育・研究・産学官連携は名古屋工業大学の三本柱です。産学官連携センターは本学の産学官連携推進の中核的組織として、ワンストップ窓口の機能を充実し、産業界等との連携を推進しています。

組織として、本学の産学官連携戦略の推進強化を図るため、企画・管理機能を持つ企画・管理部門と、技術移転の支援及びリエゾン活動を実践する知財活用部門の2部門で構成しています。

■工学教育総合センター 19号館



センター長 森 秀樹

工学教育総合センターは、入学から学修、卒業及び就職に至るまでを総合的に把握した上で、継続的な学生支援を推進すると同時に、本学の工学教育の質を向上することを目的としています。そのため、アドミッションオフィス、創造教育開発オフィス、キャリアサポートオフィスの3つのオフィスを設置し、互いに連携を持ちながら活動しています。



■留学生センター 21号館



センター長 井門 康司

留学生センターは、外国人留学生の日本語教育を行い、もって本学における外国人留学生の就学支援に資することを目的としています。そのために工学という専門性を重視しながら多様な教育とこれらに関する教育を行っています。また、外国人留学生・研究者が国際社会および日本人学生と交流するための機会を数多く提供し、大学の枠を超えた国際交流を目指しています。

■情報基盤センター 20号館



センター長 松尾 啓志

情報基盤センターは、名古屋工業大学内への電子情報基盤の提供と、この基盤を活用した教育、研究支援を行う組織として、平成18年4月に発足しました。情報基盤センターは、データベース部門、コースマネージメントシステム部門、及びネットワーク・セキュリティ部門の3部門から構成されています。学内の情報インフラを提供するとともに、新しい事務システム、教育システムの開発も行っています。さらに情報基盤センターでは、情報ネットワーク、情報メディア、情報セキュリティの研究を行っています。

■ 大型設備基盤センター 22号館



センター長 種村 眞幸

大型設備基盤センターは、学内の大型教育研究設備を管理運営し、学内外の共同利用を推進するとともに、大型教育研究設備の計画的整備を目的として、平成19年4月に発足しました。主な業務として、先端計測分析技術による学内外への教育研究支援、計測分析技術に関する基礎研究ならびに開発研究を行っています。文部科学省の2事業（設備サポートセンター整備事業、先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業「表面分析装置の共同利用による材料開発の高度化」）に参画し、支援体制の強化をはかると共に、中部地区をはじめとする民間企業等の研究開発支援（受託試験）にも力を入れています。

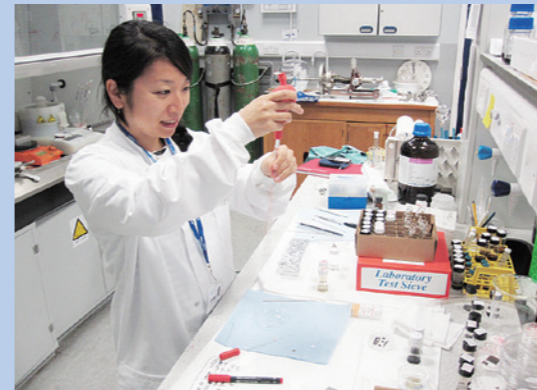
■ リスクマネジメントセンター 2号館



センター長 鶴飼 裕之

リスクマネジメントセンターは、災害、事件、事故などにより、大学構成員の生命や身体、大学の財産、名誉などに重大な損害が及ぶような状況において、迅速な対策を行うことで被害を最小限に抑え、大学の機能を維持することを目的としています。リスクマネジメントセンターに防災安全部門とリーガルリスク部門の2つの部門を置き、非常時の対応とともに、平常時より危機管理を行います。

■ セラミクス科学研究教育院 2号館



センター長 春日 敏宏

セラミクス科学研究教育院は、セラミクスを基軸にした教育と研究を相互作用的に発展させ、循環型社会の実現に貢献するために設置されています。セラミクス科学分野における世界水準に比した研究の推進と国際通用性を備えた人材を輩出することを目的としています。

セラミクス COE 教育部では、世界水準を有し、国際的視野を備えた人材、技術イノベーションに強い人材の育成、セラミクス高等研究部では環境、エネルギー、資源問題の解決に貢献するセラミクスの研究の推進を行っています。

■ 若手研究イノベータ養成センター 本部棟



センター長 湯地 昭夫

若手研究イノベータ養成センターは、国際的な研究水準で活躍し、将来、既存の専攻を横断する先導的融合分野での研究教育を牽引するとともに、イノベーションの創出や新研究領域の開拓等の取組の活性化に資する若手研究者（若手研究イノベータ）を養成することを目的として、平成21年6月に設置しました。

このセンターは、文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」により採択された「産学官連携による若手研究イノベータの養成」プログラムにより運営し、平成25年からはデュオアトラック普及・定着事業（機関選抜型・個人選抜型）も採択されました。

主な活動は先導的研究領域の研究計画策定及び研究の実施、特任教員の養成・支援、特任教員の審査基準の策定、審査の実施及び業績評価、センターの広報・事務です。本センターは今後も大学の若手研究者育成の一つの機関としての貢献を推進します。

■ 保健センター



センター長 中野 功

保健センターは大学構成員の健康支援を使命とし、疾病の早期発見・早期治療、再発予防、発症予防そして健康増進を目指しています。医師（校医、産業医）、看護師、カウンセラーによる職員及び学生の健康支援、職場巡視も行っています。医師、看護師らによる診察・処置、健康相談を行うとともに安全衛生委員会、教務学生委員会、安全管理室等と連携し、定期健康診断、特殊健康診断と有所見者の事後措置を実施しています。



役員・教職員数



■役員数 平成26年5月1日現在

学 長			理 事			監 事			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1		1	3		3	2		2	6	0	6

■教員数 平成26年5月1日現在

年齢区分	教 授			准 教 授			助 教			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
~24歳										0	0	0
25~34歳				1	1	2	17	3	20	18	4	22
35~44歳	1		1	58	3	61	36	3	39	95	6	101
45~54歳	66	2	68	56	4	60	6		6	128	6	134
55~64歳	63	6	69	13		13	1		1	77	6	83
65歳										0	0	0
計	130	8	138	128	8	136	60	6	66	318	22	340

■職員数 平成26年5月1日現在

事務職員			技術系職員			医療職員			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
73	49	122	37	15	52	0	1	1	110	65	175

※職員数とは、特定有期雇用職員・再雇用職員・参事を除く、常勤職員です。

学生数



■工学部（第一部） 平成26年5月1日現在

学科名	入学定員	収容定員	現員														
			1年次			2年次			3年次			4年次			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生命・物質工学科	154	620	114 (5)	54 (0)	168 (5)	113 (0)	48 (2)	161 (2)	117 (0)	51 (0)	168 (0)	141 (1)	46 (4)	187 (5)	485 (6)	199 (6)	684 (12)
環境材料工学科	94	380	92 (1)	9 (1)	101 (2)	82 (1)	15 (3)	97 (4)	87 (2)	9 (0)	96 (2)	105 (2)	7 (1)	112 (3)	366 (6)	40 (5)	406 (11)
機械工学科	184	740	164 (6)	24 (0)	188 (6)	174 (4)	19 (0)	193 (4)	171 (9)	24 (2)	195 (11)	244 (17)	27 (1)	271 (18)	753 (36)	94 (3)	847 (39)
電気電子工学科	139	560	139 (4)	9 (2)	148 (6)	138 (3)	4 (0)	142 (3)	150 (5)	8 (0)	158 (5)	175 (5)	1 (0)	176 (5)	602 (17)	22 (2)	624 (19)
情報工学科	164	660	156 (1)	8 (0)	164 (1)	153 (3)	14 (0)	167 (3)	154 (9)	19 (0)	173 (2)	209 (2)	17 (1)	226 (3)	672 (8)	58 (1)	730 (9)
建築・デザイン工学科	80	320	57 (3)	28 (1)	85 (4)	51 (0)	32 (0)	83 (0)	52 (2)	29 (0)	81 (2)	89 (1)	21 (3)	110 (4)	249 (6)	110 (4)	359 (10)
都市社会工学科	90	360	80 (1)	11 (0)	91 (1)	79 (0)	16 (0)	95 (0)	85 (0)	10 (2)	95 (2)	105 (5)	17 (3)	122 (8)	349 (6)	54 (5)	403 (11)
工学創成プログラム	5		1 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)	3 (0)	7 (0)	6 (0)	13 (0)
計	910 (10)	3,640 (20)	803 (21)	146 (4)	949 (25)	791 (11)	149 (5)	940 (16)	819 (20)	151 (4)	970 (24)	1,070 (33)	137 (13)	1,207 (46)	3,483 (85)	583 (26)	4,066 (111)

注：() は、外国人留学生を内数で示す。 [] は、3年次編入学定員を示す。

■工学部（第二部） 平成26年5月1日現在

学科名	入学定員	収容定員	現員																	
			1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
物質工学科	5	25	5	1	6	4	1	5	5	1	6	6		6	4	1	5	24	4	28
機械工学科	5	25	5		5	5	1	6	5	1	6	6		6	10		10	31	2	33
電気情報工学科	5	25	5	1	6	5	1	6	5		5	6		6	14		14	35	2	37
社会開発工学科	5	25	4	1	5	5		5	7		7	4		4	11	3	14	31	4	35
計	20	100	19	3	22	19	3	22	22	2	24	22	0	22	39	4	43	121	12	133



■大学院工学研究科 博士前期課程

平成26年5月1日現在

専攻名	入学定員	収容定員	現員								
			1年次			2年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
物質工学専攻	100	200	100 (1)	13 (0)	113 (1)	105 (2)	13 (0)	118 (2)	205 (3)	26 (0)	231 (3)
機能工学専攻	100	200	112 (5)	6 (1)	118 (6)	107 (4)	6 (0)	113 (4)	219 (9)	12 (1)	231 (10)
情報工学専攻	120	240	133 (1)	7 (2)	140 (3)	144 (7)	4 (2)	148 (9)	277 (8)	11 (4)	288 (12)
社会学専攻	75	150	52 (2)	20 (3)	72 (5)	74 (2)	14 (3)	88 (5)	126 (4)	34 (6)	160 (10)
産業戦略工学専攻	33 (16)	50 (16)	30 (2)	6 (0)	36 (0)	22 (1)	7 (0)	29 (1)	52 (3)	13 (0)	65 (3)
未来材料創成工学専攻	78	156	74 (1)	5 (0)	79 (1)	70 (2)	11 (2)	81 (4)	144 (3)	16 (2)	160 (5)
創成シミュレーション工学専攻	80	160	76 (5)	7 (1)	83 (6)	81 (2)	7 (5)	88 (7)	157 (7)	14 (6)	171 (13)
計	586 (16)	1,156 (16)	577 (17)	64 (7)	641 (22)	603 (20)	62 (12)	665 (32)	1,180 (37)	126 (19)	1,306 (56)

注1：() は、大学院規則第8条第3項に定める標準修業年限を1年以上2年未満とする定員を内数で示す。

注2：() は、外国人留学生を内数で示す。

■大学院工学研究科 博士後期課程

平成26年5月1日現在

専攻名	入学定員	収容定員	現員											
			1年次			2年次			3年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
物質工学専攻	5	15	2 (1)		2 (1)	3 (1)		3 (1)	7 (1)	1 (1)	8 (2)	12 (3)	1 (1)	13 (4)
機能工学専攻	5	15	5 (3)		5 (3)	5 (0)		5 (0)	10 (2)	1 (0)	11 (2)	20 (5)	1 (0)	21 (5)
情報工学専攻	5	15	10 (2)		10 (2)	8 (1)	1 (1)	9 (2)	22 (6)	1 (1)	23 (7)	40 (9)	2 (2)	42 (11)
社会学専攻	4	12	12 (0)	1 (0)	13 (0)	6 (3)	2 (1)	8 (4)	20 (4)	6 (2)	26 (6)	38 (7)	9 (3)	47 (10)
未来材料創成工学専攻	12	36	7 (4)		7 (4)	11 (3)	3 (3)	14 (6)	18 (8)	3 (1)	21 (9)	36 (15)	6 (4)	42 (19)
創成シミュレーション工学専攻	8	24	5 (2)	2 (2)	7 (4)	9 (2)	2 (2)	11 (4)	14 (3)	1 (1)	15 (4)	28 (7)	5 (5)	33 (12)
共同ナノメディシン科学専攻	3	6	5 (1)		5 (1)	2 (1)	1 (0)	3 (1)			0 (0)	7 (2)	1 (0)	8 (2)
計	42	123	46 (13)	3 (2)	49 (15)	44 (11)	9 (7)	53 (18)	91 (24)	13 (6)	104 (30)	181 (48)	25 (15)	206 (63)

注1：() は、外国人留学生を内数で示す。

注2：平成25年度共同ナノメディシン科学専攻設置。



■工学部第一部

平成26年5月1日現在

学科名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・物質工学科	推薦	15	65 (34)	65 (34)	17 (8)	17 (8)
	前期	79	258 (90)	242 (82)	85 (29)	82 (27)
	後期	60	424 (110)	217 (61)	76 (23)	64 (19)
	私費	若干名	12 (2)	11 (2)	3 (0)	3 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
	環境材料工学科	推薦	20	55 (11)	55 (11)	23 (3)
前期		39	165 (18)	139 (15)	43 (1)	41 (1)
後期		35	240 (30)	128 (14)	44 (4)	35 (4)
私費		若干名	5 (2)	4 (2)	2 (2)	1 (1)
国費・政費		若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
日韓		若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
機械工学科		推薦	15	51 (51)	51 (51)	15 (15)
	前期	119	330 (15)	324 (15)	124 (6)	122 (6)
	後期	50	465 (18)	227 (11)	63 (5)	45 (3)
	私費	若干名	16 (0)	16 (0)	4 (0)	2 (0)
	国費・政費	若干名	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
	日韓	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	電気電子工学科	推薦	10	42 (3)	42 (3)	11 (1)
前期		84	286 (16)	273 (15)	91 (5)	90 (5)
後期		45	285 (10)	160 (5)	49 (1)	41 (1)
私費		若干名	12 (3)	12 (3)	4 (1)	3 (1)
国費・政費		若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
日韓		若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
情報工学科		推薦	20	70 (14)	70 (14)	22 (2)
	前期	94	264 (24)	241 (22)	96 (5)	95 (5)
	後期	50	313 (30)	165 (15)	56 (1)	46 (1)
	私費	若干名	13 (4)	11 (3)	4 (1)	1 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	建築・デザイン工学科	AO	3	7 (4)	7 (4)	4 (2)
前期		52	211 (71)	208 (71)	53 (18)	53 (18)
後期		25	246 (59)	136 (36)	25 (8)	24 (7)
私費		若干名	11 (5)	9 (4)	4 (1)	4 (1)
国費・政費		若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
日韓		若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
都市社会工学科		推薦	10	14 (0)	14 (0)	8 (0)
	前期	45	160 (17)	156 (16)	50 (5)	48 (4)
	後期	35	220 (33)	123 (19)	41 (8)	34 (7)
	私費	若干名	10 (3)	9 (3)	4 (2)	1 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	工学創成プログラム	AO	5	5 (3)	5 (3)	4 (3)
推薦		90	297 (113)	297 (113)	96 (29)	96 (29)
計	AO	8	12 (7)	12 (7)	8 (5)	8 (5)
	前期	512	1,674 (251)	1,583 (236)	542 (69)	531 (66)
	後期	300	2,193 (290)	1,156 (161)	354 (50)	289 (42)
	私費	若干名	79 (19)	72 (17)	25 (7)	15 (3)
	国費・政費	若干名	5 (0)	5 (0)	5 (0)	5 (0)
	日韓	若干名	5 (1)	5 (1)	5 (1)	5 (1)

注1：私費は、私費外国人留学生、国費は、国費外国人留学生、政費は、マレーシア政府派遣留学生、日韓は、日韓共同理工系学部留学生を示します。

注2：() は、女子を内数で示す。

工学部第二部

平成26年5月1日現在

学科名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
物質工学科	前期	5	33 (9)	31 (9)	6 (1)	6 (1)
機械工学科	前期	5	23 (0)	23 (0)	6 (0)	5 (0)
電気情報工学科	前期	5	39 (8)	37 (7)	7 (1)	6 (1)
社会開発工学科	前期	5	35 (8)	31 (7)	6 (2)	5 (1)
計	前期	20	130 (25)	122 (23)	25 (4)	22 (3)

注：() は、女子を内数で示す。

工学部第一部編入学・転入学

平成26年5月1日現在

学科名	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・物質工学科	若干名	13 (3)	12 (3)	7 (1)	5 (1)
環境材料工学科	若干名	4 (1)	4 (1)	3 (1)	1 (1)
機械工学科	若干名	42 (3)	39 (3)	13 (3)	6 (2)
電気電子工学科	若干名	31 (2)	30 (2)	12 (1)	5 (1)
情報工学科	若干名	20 (1)	19 (1)	8 (0)	6 (0)
建築・デザイン工学科	若干名	10 (0)	8 (0)	3 (0)	1 (0)
都市社会工学科	若干名	4 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)
計		124 (10)	116 (10)	48 (6)	25 (5)

注1：第一部募集人員の若干名には、3年次編入学定員10名を含みます。

注2：() は、女子を内数で示す。

大学院工学研究科博士前期課程

平成26年5月1日現在

専攻名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
物質工学専攻	推薦	35	41 (7)	41 (7)	39 (7)	39 (7)
	一般	65	90 (9)	89 (9)	77 (6)	73 (6)
	私費	若干名	3 (1)	3 (1)	1 (0)	1 (0)
	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
機能工学専攻	推薦	39	42 (3)	41 (3)	36 (3)	36 (3)
	一般	61	106 (2)	102 (2)	81 (2)	76 (2)
	私費	若干名	13 (2)	11 (1)	5 (0)	5 (0)
	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
情報工学専攻	推薦	42	50 (5)	49 (4)	49 (4)	49 (4)
	一般	78	128 (2)	121 (2)	93 (1)	89 (1)
	私費	若干名	7 (3)	6 (3)	2 (2)	2 (2)
	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社会工学専攻	推薦	30	40 (13)	39 (13)	34 (10)	33 (10)
	一般	45	56 (10)	50 (9)	45 (8)	35 (7)
	私費	若干名	7 (5)	7 (5)	4 (3)	4 (3)
	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
産業戦略工学専攻	推薦	7	6 (1)	5 (0)	5 (0)	5 (0)
	一般	17	20 (2)	19 (2)	19 (2)	16 (2)
	私費	若干名	4 (2)	4 (2)	1 (0)	1 (0)
	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
未来材料創成工学専攻	2月選抜	9	14 (4)	14 (4)	14 (4)	14 (4)
	推薦	27	26 (3)	26 (3)	26 (3)	26 (3)
	一般	51	71 (3)	67 (3)	59 (2)	53 (2)
	私費	若干名	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
創成シミュレーション工学専攻	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	推薦	32	29 (3)	29 (3)	28 (3)	26 (3)
	一般	48	66 (3)	64 (3)	59 (3)	52 (3)
	私費	若干名	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)
計	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)
	推薦	212	234 (35)	230 (33)	217 (30)	214 (30)
	一般	365	537 (31)	512 (30)	433 (24)	394 (23)
	私費	若干名	37 (13)	34 (12)	14 (5)	14 (5)
計	国費・政費・ものづくり・企業	若干名	5 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
	2月選抜	9	14 (4)	14 (4)	14 (4)	14 (4)

注1：私費は、私費外国人留学生、国費は、国費外国人研究留学生、政費は、外国政府派遣大学院留学生、ものづくりは、ものづくり愛知留学生、企業は、企業奨学生を示します。

注2：() は、女子を内数で示す。

大学院工学研究科博士後期課程

平成26年5月1日現在

専攻名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
物質工学専攻	一般(1次)	5	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
	一般(2次)	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
機能工学専攻	一般(1次)	5	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
	一般(2次)	若干名	4 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
情報工学専攻	一般(1次)	5	8 (0)	8 (0)	8 (0)	8 (0)
	一般(2次)	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
社会工学専攻	一般(1次)	4	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)
	一般(2次)	若干名	9 (0)	9 (0)	9 (0)	9 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
未来材料創成工学専攻	一般(1次)	12	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
	一般(2次)	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	国費・政費	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
創成シミュレーション工学専攻	一般(1次)	8	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)
	一般(2次)	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
共同ナノメディシン科学専攻	一般(1次)	3	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
	一般(2次)	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
計	一般(1次)	42	32 (3)	30 (3)	30 (3)	30 (3)
	一般(2次)	若干名	16 (0)	15 (0)	15 (0)	15 (0)
	国費・政費	若干名	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)

注1：国費は、国費外国人研究留学生、政費は、外国政府派遣大学院留学生を示します。

注2：() は、女子を内数で示す。

注3：創成シミュレーション工学専攻の一般入試(1次)に国費留学生3名含む。

奨学生数

平成26年3月1日現在

区分	独立行政法人 日本学生支援機構			地方公共団体	財団法人等	奨学生合計	学生数に対する比率	
	第一種	第二種	私費外国人留学生学習奨励費					
工学部	第一部	437	490	9	11	48	995	24.5%
	第二部	12	9	0	0	1	22	15.1%
工学研究科	博士前期	349	110	6	0	33	498	38.2%
	博士後期	22	0	3	0	14	39	18.5%

※重複受給を含むため、延べ人数

平成26年度入学状況

平成26年度入学者出身学校所在都道府県

平成26年5月1日現在

地区	第一部			第二部		
	人数	比率	明細	人数	比率	明細
北海道	4	0.4	—	0	0.0	—
東北	6	0.6	—	0	0.0	—
関東甲信越	15	1.6	茨城 1	0	0.0	茨城 0
			栃木 0			栃木 0
			群馬 0			群馬 0
			埼玉 0			埼玉 0
			千葉 1			千葉 0
			東京 3			東京 0
			神奈川 1			神奈川 0
			新潟 2			新潟 0
			山梨 2			山梨 0
			長野 5			長野 0
			富山 2			富山 1
東海北陸	812	85.6	石川 7	21	95.5	石川 0
			福井 10			福井 0
			岐阜 97			岐阜 4
			静岡 24			静岡 1
			愛知 602			愛知 14
近畿	55	5.8	滋賀 16	1	4.5	滋賀 0
			京都 10			京都 0
			大阪 11			大阪 0
			兵庫 9			兵庫 1
			奈良 4			奈良 0
			和歌山 5			和歌山 0
			鳥取 0			鳥取 0
			島根 3			島根 0
中国四国	25	2.6	岡山 6	0	0.0	岡山 0
			広島 5			広島 0
			山口 3			山口 0
			徳島 3			徳島 0
			香川 3			香川 0
			愛媛 2			愛媛 0
			高知 0			高知 0
			九州			4
その他	28	3.0	—	0	0.0	—
計	949	100.0	—	22	100.0	—

卒業生・修了者数

工学部

学 科 名	平成25年度卒業生	累 計
生命・物質工学科	162	1,071
環境材料工学科	104	681
機械工学科	193	1,301
電気電子工学科	145	966
情報工学科	158	1,067
建築・デザイン工学科	75	535
都市社会工学科	91	636
工学創成プログラム	2	13
旧学科	—	38,065
計	930	44,335
第一部		
第二部		
計	962	51,243

大学院工学研究科

専攻名	平成25年度修了者	累 計
物質工学専攻	108	1,362
機能工学専攻	107	1,231
情報工学専攻	127	1,339
社会工学専攻	78	801
産業戦略工学専攻	35	343
未来材料創成工学専攻	81	413
創成シミュレーション工学専攻	95	414
旧専攻	—	5,888
計	631	11,791
博士前期課程		
博士後期課程		
計	58	959
計	—	2,452
大学院工学研究科計	689	15,202

平成25年度卒業生・修了者の就職(進学)状況

区分	第一部								第二部				大学院																		
	生命・物質工学科	環境材料工学科	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	建築・デザイン工学科	都市社会工学科	工学創成プログラム	合計	物質工学科	機能工学科	電気情報工学科	社会開発工学科	合計	物質工学専攻	機能工学専攻	情報工学専攻	社会工学専攻	産業戦略工学専攻	未来材料創成工学専攻	創成シミュレーション工学専攻	合計									
卒業生・修了者	121	77	127	105	104	29	48	1	612	4	4	1	9	3	2	7	3	2	5	8	30										
進学者数	37	23	57	34	46	46	41	1	285	4	5	5	19	104	105	118	72	29	73	81	582										
正規の職員等でない者※ (雇用契約が1年以上かつフルタイム) (勤務相当の者)	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0										
その他	4	4	9	6	8	0	2	—	33	1	1	2	4	1	2	2	3	4	3	6	19										
計	162	104	193	145	158	75	91	2	930	9	6	11	32	108	107	127	78	35	81	95	631										
農業・林業																							0								
漁業																							0								
鉱業・採石業・砂利採取業																							0								
建設業																							0								
製造業									2					2									0								
									1					1									3								
									2					2									3								
									8					8									10								
									3	3	3	3	1	1			14	1			14	12	6	2	2	1	5	2	30		
									2	1	11	2	1	1			18	1			18	6	17	5	1	3	1	33			
									—	2			4	1			7	—			7	6	6	4	1	1	6	2	25		
									1			3	3	3	2			12	8	16	21	4	1	5	7	62					
									12	11	24	11	5	2			65	—	3	1			4	29	46	35	4	5	23	23	165
									1	2	5			2			10	1	1			2	8	3	1	1	2	9	3	26	
電気・ガス・熱供給・水道業																							5								
情報通信業																							37								
運輸業・郵便業																							1								
卸売業																							4								
小売業																							3								
金融業																							3								
保険業																							0								
不動産業、物品賃貸業									1					1									1								
									—					—									—								
									1	1	1			3	—			3	1	(3)	(1)	1	(3)	1	7						
学術研究、専門・技術サービス業									—					—									—								
									1	1	1	2	1	1			7	—			7	—			7						
宿泊業、飲食サービス業																							1								
生活関連サービス業、娯楽業																							1								
教育・学習支援業									—					—									—								
									—	1	1			2	—			2	1	(3)	(2)	(1)	(5)	(2)	(3)	16					
医療・福祉																							2								
複合サービス事業																							1								
サービス業									—					—									—								
									—	1	1			2	—			2	—			2	—			2					
公務									—					—									—								
									—	1	1	1	3	11	14			31	—			31	1	(1)	(1)	(1)	(1)	3	15		
上記以外																							2								
計	37	23	57	34	46	46	41	1	285	4	5	5	19	104	105	118	72	29	73	81	582										

備考 1. () は大学院博士後期課程を外数で示す。
 2. ※「正規の職員等でない者(雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者)」とは雇用の期間が1年以上で期間の定めがあるものであり、かつ1週間の所定の労働時間がおおむね40~30時間程度の者



教育・研究機関

就職先	学 部						大 学 院										合 計									
	第一部			第二部			前期課程					後期課程														
	生命・物質工学科	環境材料工学科	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	建築・デザイン工学科	都市社会工学科	物質工学科	機械工学科	電気情報工学科	社会開発工学科	物質工学専攻	機能工学専攻	情報工学専攻	社会工学専攻	産業戦略工学専攻		未来材料創成工学専攻	創成シミュレーション工学専攻	物質工学専攻	機能工学専攻	情報工学専攻	社会工学専攻	未来材料創成工学専攻	創成シミュレーション工学専攻	
名古屋工業大学																		1	1					2	1	5
愛知県立佐織工業高等学校						1																				1
カブール大学																									1	1
岐阜工業高等専門学校																									1	1
財ケン試験認証センター	1																									1
信州大学																			1							1
ツンフセイナムレーシア大学																								1		1
豊田工業大学																				1						1
株式会社豊田中央研究所																					1					1
豊橋技術科学大学																							1			1
名古屋大学																			1							1
広島大学																								1		1
藤田保健衛生大学																					1					1
医物質・材料研究機構																							1			1
立命館大学																										1
その他(高等学校教諭)												1														1
計	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	3	3	3	20	

官公庁

就職先	学 部						大 学 院										合 計								
	第一部			第二部			前期課程					後期課程													
	生命・物質工学科	環境材料工学科	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	建築・デザイン工学科	都市社会工学科	物質工学科	機械工学科	電気情報工学科	社会開発工学科	物質工学専攻	機能工学専攻	情報工学専攻	社会工学専攻	産業戦略工学専攻		未来材料創成工学専攻	創成シミュレーション工学専攻	物質工学専攻	機能工学専攻	情報工学専攻	社会工学専攻	未来材料創成工学専攻	創成シミュレーション工学専攻
名古屋市			1	1		3	7								5	1	1								19
岐阜県							4																		5
国土交通省							1								3										4
愛知県					1	1	1								1										4
岡崎市						3																			3
三重県							1					1													2
アフガニスタン交通省																		1							1
安城市																									1
一宮市							1																		1
警察庁													1												1
厚生労働省							1																		1
小牧市	1																								1
最高裁判所							1																		1
中国国営企業												1													1
中国旅行局															1										1
東海市							1																		1
東京都新宿区							1																		1
東郷町							1																		1
飛鳥村							1																		1
豊田市																							1		1
碧南市																					1				1
防衛省							1																		1
四日市市							1																		1
和歌山市							1																		1
計	1	0	1	1	3	13	16	0	0	0	1	2	1	0	11	1	0	4	0	0	0	0	0	0	55

非営利法人

就職先	学 部						大 学 院										合 計								
	第一部			第二部			前期課程					後期課程													
	生命・物質工学科	環境材料工学科	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	建築・デザイン工学科	都市社会工学科	物質工学科	機械工学科	電気情報工学科	社会開発工学科	物質工学専攻	機能工学専攻	情報工学専攻	社会工学専攻	産業戦略工学専攻		未来材料創成工学専攻	創成シミュレーション工学専攻	物質工学専攻	機能工学専攻	情報工学専攻	社会工学専攻	未来材料創成工学専攻	創成シミュレーション工学専攻
医都市再生機構																									1
半田市医師会健康管理センター				1																					1
計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

進学状況

(1) 進学率

出身区分	卒業・修了者	進学者	進学率	
工学部	第一部	930名	612名	65.8%
	第二部	32名	9名	28.1%
大学院工学研究科(博士前期課程)	631名	30名	4.8%	

(2) 進学先

進学先	学 部		大学院		合計
	第一部	第二部	博士前期	博士後期	
名古屋工業大学	575	8	29		612
名古屋大学	18				18
京都大学	4				4
奈良先端科学技術大学院大学	2	1			3
東京大学	2				2
大阪大学	2				2
東京工業大学	2				2
電気通信大学	1				1
一橋大学	1				1
京都工芸繊維大学	1				1
名古屋市立大学	1				1
マンチェスター大学	1				1
武蔵野美術大学	1				1
北陸先端科学技術大学院大学	1				1
リーズ大学			1		1
計	612	9	30	0	651

※学部の進学先は大学院博士前期(修士)課程、大学院博士前期課程の進学先は大学院博士後期課程とする。



外国人留学生数一覧（国・地域別）

平成26年5月1日現在

区分 国・地域	国費等外国人留学生					私費外国人留学生										合計					
	学部 生	学部 研究生	大学院		日本語 研修	学部 生	学部 研究生	大学院		学部 生	学部 研究生	大学院		学部 生	学部 研究生	日本語 研修	学部 生	学部 研究生	日本語 研修		
			前期	後期				前期	後期			前期	後期							前期	後期
アフガニスタン			4	6																10 (3)	
オーストラリア																				1	
バングラデシュ				3																4	
ブラジル	2			1																4	
カンボジア																				1	
中国			1	6																129 (40)	
台湾																				2	
エチオピア																				1	
フィンランド																				1	
フランス																				4	
ドイツ																				1	
インド			1																	7 (3)	
インドネシア	1			1																6 (2)	
韓国	13 (2)																			36 (6)	
マレーシア																				26 (7)	
モンゴル			1																	2 (2)	
ミャンマー				1																1	
ネパール																				1	
パキスタン				1																1	
スロバキア																				1	
スペイン																				2	
スリランカ																				1	
タイ																				1	
チュニジア																				1	
トルコ																				2	
ウガンダ																				1	
ベトナム																				30 (5)	
計	18 (2)	0 (0)	8 (2)	20 (5)	0 (0)	1 (1)	47 (10)	24 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (3)	0 (0)	33 (8)	69 (19)	33 (9)	48 (17)	34 (7)	0 (0)	1 (0)	12 (6)	197 (58)

注1：()内は女子を内数で示す。
 注2：国費等外国人留学生には日韓共同理工系学部留学生13名、外国政府派遣等留学生には日韓共同理工系学部留学生8名を含む。
 注3：※合計欄の「学部研究生等」及び「研究生等」には、「短期留学生」（主として大学間交流協定に基づいて母国の大学に在籍し、必ずしも学位取得を目的としない、概ね1学年以内の1学期間又は複数学期教育を受ける留学生）を含む

学生交流について：●授業料等不徴収の条項あり
 ○授業料等不徴収の条項なし

平成26年5月1日現在

大学間学術交流協定数	53
部局間学術交流協定数	16
合計国・地域数	27

国・地域	大学名／機関名 (本学締結部局・附属図書館)	部局間 交流	学生 交流	締結年月日	
アジア	アフガニスタン	カブール大学	○	2005. 11. 22	
	バングラデシュ	バングラデシュ工科大学	○	1999. 8. 31	
	中国	陝西科技大学		○	1990. 9. 6
		清華大学		●	1994. 10. 10
		西安交通大学		●	1996. 11. 18
		浙江大学		○	1997. 2. 28
		北京理工大学		○	1997. 10. 13
		北京化工大学		●	2005. 2. 23
		北京化工大学炭素繊維と複合材料研究所 (本学先進セラミックス研究センター)	○		2007. 11. 21
		同濟大学		●	2006. 6. 6
		中国科学院半導体研究所			2007. 5. 18
		中国科学院広州能源研究所 (本学セラミックス科学研究教育院)	○	○	2010. 11. 19
		復旦大学		○	2007. 12. 30
		中山大学		○	2008. 5. 9
		四川省社会科学院		○	2008. 11. 5
		廈門大学材料学院 (本学未来材料創成工学専攻)	○	○	2009. 1. 29
	大連東軟信息学院		●	2010. 4. 12	
	長春大学図書館 (本学附属図書館)	○		1995. 1. 17	
	吉林大学図書館 (本学附属図書館)	○		1995. 1. 16	
	インドネシア	アナ大学		●	1996. 9. 5
インド工科大学ボンベイ校			●	2002. 6. 19	
中央ガラス・セラミックス研究所				2005. 6. 2	
デリー大学			●	2007. 6. 29	
インド国立科学研究所			●	2009. 2. 24	
鉱物および材料工学研究所科学および工業研究カウンスル (本学先進セラミックス研究センター)		○		2013. 8. 11	
ソナ工業大学フォトリクス・ナノテクノロジーセンター (本学未来材料創成工学専攻)		○	○	2014. 3. 5	
ウタヤナ大学			●	2003. 10. 14	
漢陽大学校			●	2003. 3. 10	
ソウル国立大学電気情報工学専攻 (本学情報工学専攻)		○		2005. 9. 20	
マレーシア	明知大学校		●	2010. 9. 30	
	マラ工科大学		●	2005. 7. 8	
	マレーシア工科大学		●	2006. 6. 29	
	ツン・フェイ・オン・マレーシア大学マイクロエレクトロニクス・ナノテクノロジー—シャムスティン研究センター (本学機能工学専攻、未来材料創成工学専攻)	○	○	2012. 8. 16	
	オマーン	サルタン カブス大学		●	2003. 3. 5
		タマサート大学		●	2004. 3. 11
	タイ	泰日工業大学		●	2007. 10. 30
		チュラロンコン大学		●	2008. 11. 14
	台湾	国立台北科技大学		●	2005. 8. 16
	トルコ	ドゥムルプナル大学理工学専攻 (本学未来材料創成工学専攻)	○	○	2013. 7. 9
ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー物質科学研究所		●	2008. 2. 21	
	ハノイ工科大学		●	2008. 9. 18	
オセアニア	シドニー工科大学		●	1997. 8. 8	
ヨーロッパ	オーストラリア	クイーンズランド大学バイオエンジニアリング・ナノテクノロジー研究所 (本学物質工学専攻)	○	○	2013. 5. 15
	オーストリア	ウィーン工科大学建築設計専攻 (本学創成シミュレーション工学専攻)	○	○	2012. 10. 1
	ブルガリア	ペリコ・タルノボ大学		●	2013. 9. 2
	フィンランド	アールト大学		●	2003. 1. 31
	フランス	リモージュ大学、国立セラミックス工学大学院		●	2003. 2. 18
		リール国立化学大学院		●	2003. 2. 19
		EFREI		●	2006. 10. 3
		ESTP		●	2009. 3. 11
		ESIGELEC		●	2010. 3. 8
	ドイツ	ボフティエ大学		●	2010. 10. 5
		ケムニッツ工科大学電気情報工学部 (本学情報工学専攻)	○		2006. 10. 23
		エアランゲン・ニュルンベルク大学		●	2011. 3. 11
		ミラノ大学		○	2004. 3. 30
		パドバ大学経営工学部 (本学情報工学専攻)	○	○	2011. 1. 17
	ポーランド	ボズナン工科大学情報経営工学科 (本学情報工学専攻)	○		2006. 12. 29
	ルーマニア	ヤシ「アレクサンドル・イオンクザ」大学		○	1999. 8. 10
	ロシア	メンデレーフ・ロシア化学技術大学		○	1991. 5. 16
	スペイン	バレンシア州立工芸大学		●	2000. 11. 14
	スウェーデン	ルレオ工科大学		●	2013. 10. 14
	英国	インベリアル・カレッジ・ロンドン		○	1991. 6. 3
リーズ大学			○	1991. 6. 4	
リーズ大学粒子科学工学研究所 (本学先進セラミックス研究センター)		○		2007. 11. 6	
シェフィールド大学				2005. 7. 8	
アーカンソー大学フォートスミス校			○	2007. 5. 16	
北米	アメリカ合衆国	クレムソン大学	○	2008. 2. 7	
		フロリダ大学	○	2010. 7. 28	
南米	ブラジル	ブラジリア大学	●	1999. 1. 7	

学生生活上の施設等

■ 大学会館



大学会館は、大食堂、カフェテリア方式食堂、喫茶室、購買、理髪店のほか、学生が利用できる就職資料室、女子談話室、集会所、課外活動施設（5室）等の機能を備え、目的に合った使用ができるようになっています。

■ NITech マート



NITech マートは、1階はコンビニ「はじっこ」、2階は「ラウンジカフェ」となっており、昼夜利用することができます。また、「はじっこ」内には、ATMが設置されているほか、「ラウンジカフェ」は食事の場だけでなく、コミュニケーションの場として利用することができます。

■ ミニコンビニ 1号館1階



ミニコンビニがあり、中にはゆうちょ銀行のATMが設置されています。

■ 木曽駒高原セミナーハウス



セミナーハウスは、本学の学生・職員の研修及び健康増進を図るために設けられた施設です。長野県木曽郡木曽町の木曽駒が岳の山麓で正面に御岳を臨む風光明媚なところにあります。課外活動、クラブ、研究室等の活動、研修、親睦等に利用できます。

■ 課外活動施設



学生がスポーツや芸術に打ち込んだり、趣味を共有する仲間と出会い活動できる場として、御器所地区には、合宿所、弓道場、体育館、プール、運動場などの施設があり、千種地区には、合宿所、野球場、グラウンドなどの施設があります。また、学外には、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫があります。

■ 保健センター



保健センターは、大切な学生みなさんの健康について専門的な支援を行う施設で、学生の健康維持・増進、疾病の早期発見、予防等を目的として、健康診断、健康相談、健康指導等を行っています。

■ 学生寮（恒和寮）



恒和寮は、学生生活のための良好な環境を提供し、規律ある共同生活を通して教養を高め、学園生活の充実に資するために設けられた学生寮です。

■ ゆめ空間 19号館1階



学生が集い、語らい、学習することができるフリースペースとして「ゆめ空間」があります。1階を集いの場とする動の空間として飲食もできるスペース、2階は自学自習の場とする静の空間として、自由に利用できるPCも設置されている学習スペースとなっています。

■ ゆめルーム 53号館1階



学生が集いの場に焦点をあてたフリースペースとして「ゆめルーム」があります。「ゆめルーム」は開放的で明るい空間となっており、隣には大学生協ショップ「かどっこ」があるなど、学生同士の交流がより活発にできる学生交流スペースとなっています。

■ ゆめ広場 19号館北側



キャンパス屋外の憩いの広場として「ゆめ広場」があります。「ゆめ広場」は学生からアイデアを募った学内コンペティションを経て造られました。デッキはゆっくり読書をしたり、友人同士でランチをしたりと、学生がのんびりくつろげる空間です。

■ 自習ルーム・自習室 23号館2階、52・53号館各階



授業の合間等に予習・復習ができる場所として23号館2階に自習室、52・53号館講義棟の各階に自習ルームがあります。学習机は、隣席との間に衝立を備えた仕様となっており、静穏な学習環境を用意しています。

■ 国際交流会館



国際交流会館は、本学が推進する諸外国との教育及び研究上の国際交流に寄与することを目的として設けられた外国人留学生及び外国人研究者の居住用の施設です。留学生の入居開始は毎年4月と10月、入居期間は6か月以内です。留学生たちが会館のロビーや和室で会合やパーティーを開くこともできます。

主な教育研究補助金採択状況

平成26年5月1日現在

事業名	プロジェクト名	期間	内容
テニュアトラック普及・定着事業（機関選抜型・個人選抜型）	—	平成25年度～平成29年度	若手研究者の育成を目的とした「若手研究イノベータ養成センター」において、広く国内外から優秀な若手研究者を集め、任期制特任教員として採用してテニュアへ導入するプログラム。
先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業	表面分析装置の共同利用による材料開発の高度化	平成25年度～平成27年度	大型設備基盤センターに設置されている表面分析等の装置を、民間企業、大学等に開放して、高機能・高性能材料開発を推進することを目的としている。平成24年度まで実施していた「先端研究施設共用促進事業」が発展強化されたもの。

プロジェクト研究所

プロジェクト研究所は、学際プロジェクトや産学官連携に資する研究を推進するもので、事業に要する経費は、各年度2,000万円以上の外部資金をもって充て、設置期間は3年以上5年以下とすることを設置の条件としています。

平成26年4月1日現在

研究所の名称	研究代表者（研究所長）
日本ガイシイノベーション研究所	森 秀樹
藤本技術総合研究所	坂口 正道
国際音声技術研究所	徳田 恵一
日立ハイテクノロジーズ・メカトロニクス研究所	岩崎 誠
エネルギー触媒開発研究所	小澤 智宏
次世代自動車駆動用先進モーター開発プロジェクト研究所	小坂 卓
名工大スマートマテリアル創成研究所	日原 岳彦
機能材料研究所	渡辺 義見
粉体科学研究所	藤 正督
窒化ガリウムパワーデバイス研究所	江川 孝志
未来医療介護健康情報学研究所	岩田 彰
ピアマカニクスモーションシステム研究所	岩崎 誠
先端研究基盤共用促進研究所	種村 眞幸

※設置順

平成25年度科学研究費助成事業

件数	金額（千円）
234	635,347

平成25年度知的財産収入

内 訳	金額（千円）
特許権	8,878
著作権	158
ノウハウ	106
有体物	4,550
合計	13,692



収入 (単位：百万円)

区 分	決算額
運営費交付金	4,642
自己収入	3,461
学生納付金収入	3,263
雑収入	198
外部資金関係収入	3,873
施設整備費補助金等	1,385
施設整備費補助金	1,360
国立大学財務・経営センター施設費交付金	25
前年度からの繰越金	612
計	13,973

注1：外部資金関係収入については、(外部資金関係内訳)を参照。
注2：前年度からの繰越金については、平成25年度支出分のみを記載。

支出 (単位：百万円)

区 分	決算額
人件費	5,251
物件費	2,405
教育経費	727
研究経費	804
教育研究支援経費	316
一般管理費	558
外部資金関係事業費	4,277
施設整備費補助金等事業	1,385
翌年度への繰越金	655
計	13,973

(外部資金関係内訳) (単位：百万円)

区 分	件 数	決算額
寄附金	564	212
受託研究費	130	828
共同研究費	238	626
受託事業費	4	18
科学技術人材育成費補助金	1	183
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	1	30
研究開発施設共用等促進費補助金	1	502
若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金	1	22
設備整備費補助金	1	31
ぎふ技術革新センター運営協議会 共同研究助成事業助成金	1	3
研究拠点形成費等補助金	1	72
先端技術実証・評価設備整備費等補助金	1	1,191
間接経費 (科学研究費補助金等)	269	155
計	1,213	3,873

(注) 寄附金の決算額には、未収収益等を含む。

平成26年5月1日現在

区 分	建物 (単位：m ²)	土地 (単位：m ²)	所 在 地
御器所団地	103,191	138,664	〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
専門学科・共通教育棟	103,191		
本部棟	3,299		
附属図書館	5,577		
教育研究センター	1,723		
ものづくりテクノセンター	(1,028)		
極微デバイス機能システム研究センター	(508)		
次世代自動車工学教育研究センター	(97)		
コミュニティ創成教育研究センター	(66)		
高度防災工学センター	(24)		
産学官連携センター	1,371		
留学生センター	313		
情報基盤センター	1,479		
大型設備基盤センター	1,657		
窒化物半導体マルチビジネス創生センター	2,350		
保健センター	509		
講堂	1,551		
体育館	2,479		
55号館 (課外活動共用施設)	1,729		
大学会館	4,478		
国際交流会館	2,155		
NITクラブ	264		
校友会館	589		
NITech マート	303		
その他	2,704		
小 計	131,178	138,664	

千種団地	千種運動場	412	34,439	〒464-0083 名古屋市千種区北千種二丁目512-1
	学生寮 (恒和寮)	2,933	7,336	
	小 計	3,345	41,775	

先進セラミックス研究センター	2,754	20,943	〒507-0071 多治見市旭ヶ丘十丁目6-29
多治見駅前地区 先進セラミックス研究センター オープンラボ他	*a 1195 *a (771) *a (424)	/	〒507-0033 多治見市本町三丁目101-1 (クリスタルプラザ多治見4階)
蒲郡艇庫	170		*a 200
庄内川艇庫	376	635	〒454-0944 名古屋市中川区大蟻螂町字西流358-3
志段味課外活動施設	246	7,683 *a 87	〒463-0002 名古屋市守山区大字中志段味字南原2678
木曾駒高原セミナーハウス	378	*a 4,628	〒397-0002 長野県木曾郡木曾町新開字水沢129-10
旧狭間住宅	2,669	2,981	〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町27
合 計	142,311 *a 1,195	212,681 *a 4,915	

*a: 借上げ数量を、外数で示す。
() は、内訳を示す。



2号館

56号館



講堂・校友会館

鈴木禎二教授謝恩記念塔



国立大学法人

名古屋工業大学 概要

平成26年7月発行

発行

名古屋工業大学

所在地

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL 052-735-5000

URL <http://www.nitech.ac.jp>

編集

名古屋工業大学企画広報課 広報室

表紙デザイン

NIT DESIGN PROJECT